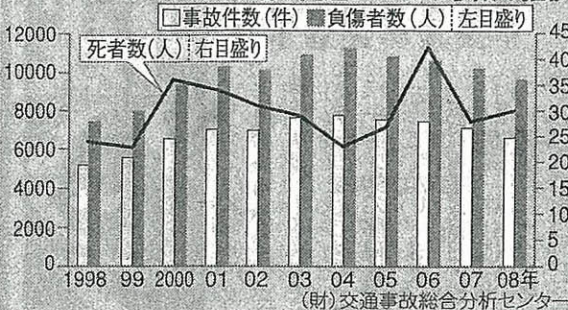


多発するブレーキとアクセルの踏み間違い!! 感覚に頼らないで物理的に予防する技術続々登場

年末に入り、オートマチック車(A/T車)でブレーキとアクセルを踏み間違える事故が相次いでいる。今月3日には幼稚園の園長が運転する送迎バスが暴走し、待機していた園児9人が重軽傷を負った。4日には佐賀市内のピリヤード場にワンボックスカーが突っ込み、運転していた30代女性が負傷した。ほかにも同様の事故は頻発している。「踏み間違い」を防ぐための方策を調べてみた。

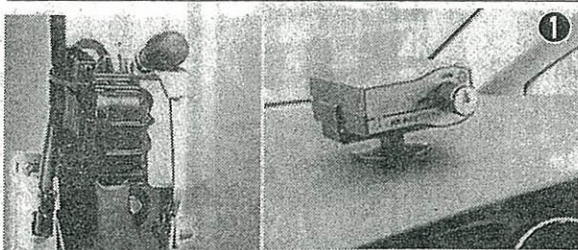
「踏み間違い事故」はこのことに気が別表の通り、毎年7000件前後も起きている。元自動車事故対策センターの研究開発室主査の伊藤典幸・関東学院大准教授は「この種の事故が起きる理由として、何かしらの焦りが生じている、他の」

ブレーキとアクセルの踏み間違いによる事故の推移



「そのために、伊藤氏は「アクセルやブレーキペダルの右足を動かすたびに一呼吸置いて」

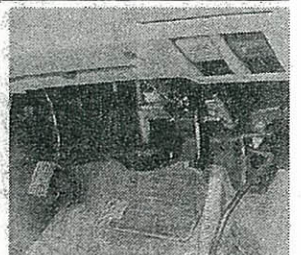
軽く床とかかとを離し、「ブレーキOK」「アクセルOK」と駅員のよう



とはいえ、「慣れ」に支配されたドライバーとしては、物理的に事故を防ぐ対策もほしいものだ。実はすでに、いくつかの「アクセル/ブレーキ踏み間違い防止装置」が商品化されている。

急な踏み込み感知

停車時から時速80km/hまで、巡航時から停車までの時速160km/hの範囲で急なアクセルの踏み込みを感知した際、自動的にエンジンを一時的にアイドリング状態にするのは、サン自動車工業の「SDAS」(取り付け費別途8万円)や、写真①のシステム(取り付け費別途20万円)と同様に、急にアクセルを踏み込むとペダルが重くなり、警告ブザーが鳴る。さらに踏み込むとエンジンが停止するが、時速約30km/h以上で走行している場合はアクセルを軽く戻すと



操作方法変え

にも危険を訴える仕組みだ。作動後は停車までアイドリングが解除されないなど徹底している。アクセルペダルを最大位置(ベタ踏み)まで踏み込んだ際、踏力が15kg以上だとエンジンを停止するのはアルエフビイの「SDAS」(エスダス) (取り付け費込み20万円) 同様に、運転中に急にアクセルを踏み込むとペダルが重くなり、警告ブザーが鳴る。さらに踏み込むとエンジンが停止するが、時速約30km/h以上で走行している場合はアクセルを軽く戻すと